

日 時：平成30年3月27日(火) 13時30分～14時50分

場 所：湯梨浜町役場 第3会議室

出席者：戸羽委員長、山根委員、長委員、福井委員、大田委員、谷岡委員、福井委員(代理出席)、米村委員
(事務局)

山田課長、洞ヶ瀬センター所長、植田副主幹、佐々木主事、米原生活支援コーディネーター

田中主任介護支援専門員、戸崎社会福祉士

計 15 名

1 開 会

2 あいさつ

委員長：昨年秋より、この会を開催し、本日で3回目となります。年度末で気忙しい時期ではあるが、30年度に向けて、こういった形で事業を進めるのか、みなさん方のご意見をいただきながら、協議をしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

2 協 議

① 第2層生活支援コーディネーター・第2層協議体について

事務局：資料に基づき、説明。

委 員：保健福祉会の活動について説明。平成30年度に向けて第2層の生活支援コーディネーターを社会福祉協議会の各支部で配置を予定しているところである。それを受け、社協では従来保健福祉会を各自治会で組織して頂くようお願いしており、全自治会のうち、2地区を除いて配置済みである。2地区においては公民館が集落にないことが理由としてあげられるが、会の活動自体は行っている。保健福祉会の組織は自治会長である区長が保健福祉会の会長となっており、民生児童委員や愛の輪協力員、福祉推進員等の役員の方で構成されている。活動内容としては見守り活動やネットワーク作りのための研修を受けたり、マップ作りやサロンの開催、困りごとについての支援等があげられる。社会福祉協議会では第2層の取り組みとしてこの保健福祉会の活動をより強化していくことを考えている。そのため、コーディネーターとしてもニーズ発掘し、困りごとの解消に向けて取り組んでいきたい。従来取り組んでいる内容ではあるが、それを第2層の活動として行っていくことをイメージしている。保健福祉会のネットワークのイメージについては中心にニーズを抱えている高齢者等がいて、その周りに保健福祉会が取り囲んで、横のつながりをもっていき、社協の職員等も関わりながらネットワーク作りを行っていく。そして、もうひとつ社協が行っている活動については地域支え合いマップ作りがある。マップを作成していく過程で、例えばごみステーションの位置を書き込み、その後に高齢者世帯や障がい者がいる世帯をマーキングしていくと、ごみステーションが遠くてごみ捨てが大変そうというニーズに気付くことができ、その場でどうしたらよいのかという解決策についても話し合うことができる。そういったことも目的にしながらマップ作りについても進めていきたいと考えている。

事務局：サロン訪問状況について資料に沿って説明。

委員長：第2層の協議体、生活支援コーディネーターを社協の方に委託という方向で進んでおり、内容として既存の組織である保健福祉会の活動強化というような形になっているが、それについてご意見や質問等ありましたら、発言をお願いしたい。

委員：自分の地区でもサロンを開催しているが、参加者はだんだん減ってきている。天候がよくなかったり、足が悪かったりすると集会所まで行けないという人もいる。募集をかけても集まらない現状がある。年代が若ければ、まだ参加はしなくていいと言われるし、高齢になると行くことが困難になるしで、参加できる年代が限

られており、難しくなっている。現在月1回開催しているが、参加者は15名前後である。サロンの内容もマンネリ化しているのが課題になっているが、脳トレに取り組んで少しでも認知症予防になればと考えている。継続して参加してもらえたらよいが。

委員長：サロンの参加者が少なくなっている現状をどう捉えるのか。ほかに出る場所があるのか、家に閉じこもっているのか、参加者の数だけを見ただけでは判断しにくい。

委員：普段閉じこもっている人がサロンに出てきて地区の人と交流できて話ができたりすればよいことではあると思う。畑で集まって話している姿も見られる。

委員長：一人暮らしも増えているが、高齢者世帯も多い。うちの地域でも30軒近くある。生活支援を必要としている人も増えているだろう。

委員：60代の若いうちからサロンに参加してもらえるのが一番よいとは思う。少し若くなるとおやじの会に入っていたり、その会を卒業すると達人クラブがあったり、年代によって属する団体があり、活動も活発である。けれども、70後半から80代になってくると、積極性がなくなってしまう傾向にある。若い人に頼る様子が見られる。そこを積極的に高齢者の方から「これをしよう」や「あれがしたい」というような声が出てくればまた違ってくるとは思うが、いまはお客さん状態になってしまっている。

委員長：シルバー人材センターの方でも高齢者のニーズは上がってきているか。

委員：最近も生活の場の掃除についての依頼があった。今年度は粗大ごみ始末についての依頼が増えてきていた。その他には倉庫や小屋においてある家財道具の始末についても数件あった。また、畑の耕運の依頼もいくらかあった。農家ではないが、そこそこの面積がある土地のよう。作物に影響する仕事は非常に難しい。作物の出来具合によっては文句を言われることもある。会員の方のプライドも保ちながら、お客さんの要望にも応えながらなんとかつないでいる。依頼内容は固定化しつつあったが、今年度は特徴的な依頼が上がってくることが多かったように感じている。シルバー人材センターは130人ほどの会員であるため、ニーズが多様化してくると、対応できる会員がおらず、マッチングができないことも出てくる。

委員長：会員の高齢化という問題もあるだろうし、難しくなってくるだろう。

委員：保健福祉会の活動として、研修会や交流活動、防災活動等書いてあるが、頻度としてはどのくらいを掲げてやっているのか。

委員：現在は役員会2回以上と声かけ、見守りの安否確認の二つを必須としている。その他の6項目の活動については、この中のうち、どれか一つを取り組んでもらえばよいということになっており、それで実績報告を受けている。頻度も最低が1回からであるが、サロン活動は月1回開催であるところが半分くらいはある。週1回開催の地区は少ない。また、高齢者のサロンではなく、年間行事として異年代交流会として子どもから高齢者まで参加する大きな行事として行っているところも多い。マップ作りについては防災活動の避難訓練と合わせておこなっているところもある。現在32地区でマップ作りも行っている。

委員長：保健福祉会の財源は県社協から出ているのか。

委員：県社協からは出ていない。みなさんからの会費や募金等が財源になっている。役員会に生活支援コーディネーターとして参加することを検討している。

事務局：生活支援体制整備事業の取り組みとしては新しいものなので、どんなものなのか理解してもらうところから始める必要がある。保健福祉会の活動としては以前から行っているが、そこに生活支援のエッセンスを織り交ぜてやっていくことになる。

委員長：保健福祉会は本来地域の助け合いを实践するための会であると思うが、保健福祉会イコールサロン活動というイメージが強くなっている。活動内容をみるといろいろあるのだと思った。

委員：実績には上がってこないが、話を聞いていくと、地域の中で助け合い活動が行われている地区も多いように感じている。民生委員や区長の方が除雪をしたり、買物をしていたり、ごみ捨てを手伝っていたりされている。ただ活動の実績としては上がってこない。

委員長：普段生活している中で、ごみ出しの日を聞かれ、答えたことがあったが、ごみ捨て場をみるとごみの日でない日に出しておられた。関わっていくなかで、認知症により曜日がわからなくごみ出しの日を間違えていることがわかった。その家は高齢者世帯であり、考えてみれば問題はごみ出しだけでなかった。そういったところをどうやって支援したらいいのか。そういう家がこれからどんどん増えてくるだろう。言ってもなかなかわからない。周りの人にも相談するように声はかけるが、周りも高齢化していたりして、うまいこと助け合いができていないことがある。

事務局：前回も話題に出たが、地域で買物に困っているという声があったため、移動販売車をお願いして来てもらったが、ふたを開けてみたら利用者がいなかったことがあった。困り感と解決策とのマッチングが十分ではなかった。困っていることの仕分けとマッチング、担い手の必要性等を見極めて行うことが大切である。

委員：自分の地域でも移動販売車を頼んだことがあったが、利用者がおらず、自然消滅してしまった。頼んだのに客が来ないとなると気の毒である。家の軒先であつたら出て行ける、公民館まで出てくるのも大変という人もいる。

委員長：小さな拠点作りの会議でも似たようなことがあがっている。泊に店がほしいという意見もあるが、いざ店を持ってきてみてもいつまで続くのか見通しがたたない。

委員：デイサービスのように送迎でもあればまた違うのかもしれないが、買物の送迎サービスを確保するのもいろいろ大変になってくるだろう。

事務局：東郷地区ではAコープ跡地を改造中で秋ごろ完成予定。そこにも店舗が入るような構想である。泊地域でも場所はまだ議論中であるが、支所や公民館機能も兼ねた複合施設を検討されている。そしてその拠点と家や集落を線でつなぐ方法が必要である。高齢者が増えて交通手段がない、運ぶ手段も合わせて考えないといけない。

委員：4月より社協の乗り合いバスも週1回に増えると聞いている。ルートの見直しも必要になってくるのではないか。

委員：乗り合いバスもだいが融通を気かせて、停留所だけでなく、バスが止められて目印になるような場所であれば行かせてもらうようにはしている。しかし、そこまでも行けない人もいる。ドアトゥドアの対応でなければ難しい人もいる。

委員：乗り合いバスの利用者はバスの乗り降りが自分でできる人でないといけないのか。

委員：介護保険の認定を受けると利用の対象外となる。

委員長：いまは地区の中での送迎の車をよく目にするようになった。大きな車となると地区内では走りにくく、軽自動車であると少人数しか乗せられない。乗り合いバスや送迎にしてもどんな形よいか悩ましい。

② 平成30年度おける生活支援体制整備事業について

事務局：資料に沿って説明。

委員長：来年度も協議体の開催については、第2層の活動の進捗状況も見ながら進んでいくと思う。この委員の任期は2年間であるため、31年の9月までとなっているため、よろしくをお願いします。

事務局：次回の会には第2層の年間計画と進捗状況についても説明ができればと考えている。第1回目は7月頃を予定している。また、第1層と2層のコーディネーターが連携するための打ち合わせ会も3か月に1回程度

開催していく予定である。コーディネーター同士で情報収集したものの共有や意見交換をしていく。やりながら頻度についても検討していく。1層が役場、2層が社協というふうにご理解いただければと思う。予算も通ったため、4月から社協と一緒にやっていく形となる。先ほども買物ができない方に対して移動販売車では解決できなかったという話がでたが、ニーズが漠然としており、もう少し細かく、行けなくて困っているのか、買えなくて困っているのかももう少し掘り下げて聞いていく必要がある。そうすればミスマッチも防げていくのではないかと考えている。

委員：困りごとの困窮度というか度合の問題もある。漠然と聞いたり、アンケートをとっても困りごとを把握したことはない。困窮度に結び付けていくための聞き方をしないといけない。地域の全体としての困窮度を把握したうえで、意見を聞いていくべき。

委員：ちなみに、食生活改善委員は各地域に配置されているのか。

委員：各地域でないため、いない地区もある。会員の方も高齢化しており、増えていない実態がある。

委員：会員も固定化されており、交代がない。新たな委員のなり手もないのではないのか。

委員：委員は委嘱をしているのか。

委員：委嘱までは行っていない。募集をかけ、委員を養成する講座を受けていただくようになっている。

③ その他

事務局：次回は7月頃を開催の予定としているため、よろしくお願いします。

委員：乗り合いバスについては、情報を知らない人も多いため、引き続き周知をお願いしたい。

事務局：社協の広報誌には出ていたが、繰り返し広報をしていくことが大切。先日、医療介護連携の会議で町内の医師からも乗り合いバスで医療機関も回ってくださるとありがたいとご意見があった。乗り合いバスと診察の時間の調整をしてもらえば利用がしやすくなるようには思う。

委員長：地域の中のことを考えるのは大変で、これからもっといろいろなことが出てくるのだろうと思う。共助の部分が地域の中で大事になってくる。そのへんをハードだけでなくソフト面を充実させていきたい。昔のような近所付き合いがまたできるような関係性ができていけばよいと思う。役場の方も膝を突き合わせてその辺の意見を拾っていただきたい。また、なにか気付いた点があれば、包括支援センターの方をお願いします。

5 閉 会